

ノリタケ株式会社

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算説明会

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などによって、計画と異なる可能性があることにご留意ください。

- 1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要**
- 2. 2026年3月期 業績予想と重点施策**
- 3. 第13次中期経営計画の進捗**

- 1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要**
2. 2026年3月期 業績予想と重点施策
3. 第13次中期経営計画の進捗

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



連結損益計算書

前年同期比で減収減益

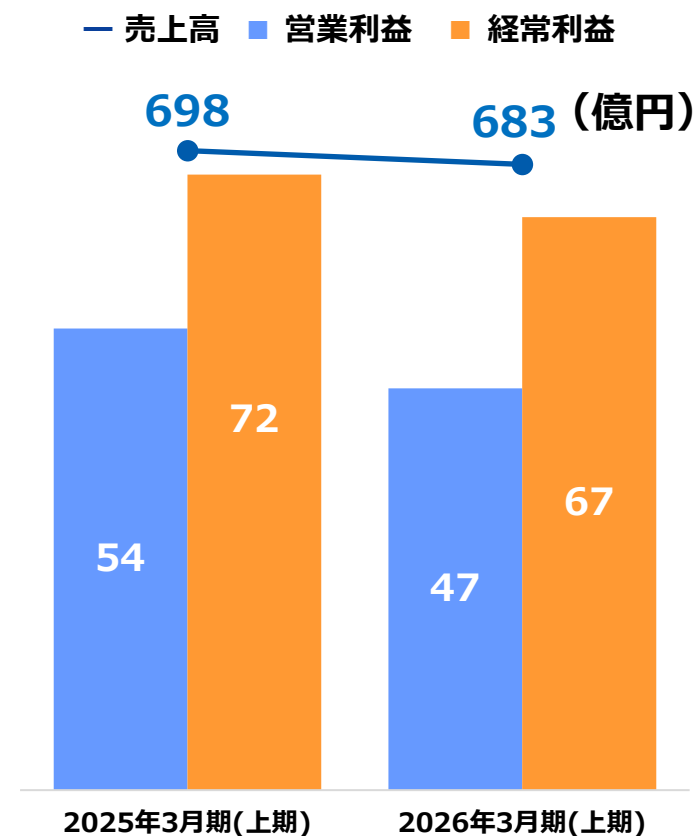
売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益はいずれも減少

(億円)

	2025年 3月期 (上期)	2026年 3月期 (上期)	対前年 同期比
売上高	698	683	△2.1%
営業利益	54	47	△12.9%
経常利益	72	67	△7.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	60	54	△10.4%

中間配当金80円/株（期末配当金80円/株予定）

自己株式取得 41億円（930,900株）

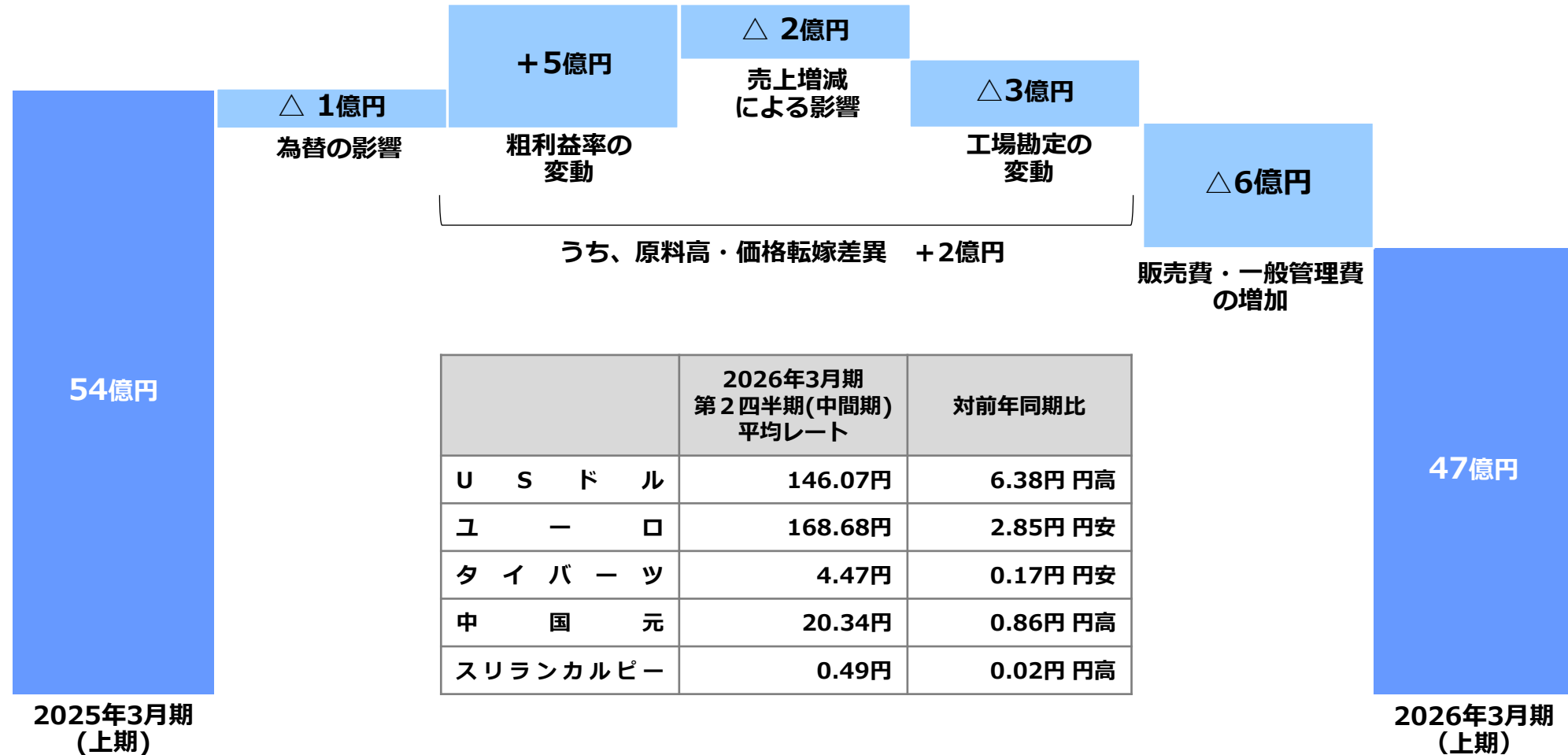


1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



営業利益の変動要因

粗利益率は向上したものの 販売費・一般管理費の増加等により、対前年同期比 7億円の減少



1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



経常利益の変動要因

営業利益の減少△7億円、営業外損益の増加+1億円により、対前年同期比△6億円

(億円)			
	2025年3月期 (上期)	2026年3月期 (上期)	対前年同期比
営 業 利 益	54	47	△7
受 取 配 当 金	6	6	+1
受 取 賃 貸 料	3	3	+0
為 替 差 損 益	△3	△0	+3
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	10	9	△1
そ の 他	2	1	△1
営 業 外 損 益	18	19	+1
経 常 利 益	72	67	△6

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



特別利益・特別損失

投資有価証券売却益 7.5億円、固定資産売却益 0.1億円
固定資産処分損 1.4億円、投資有価証券評価損 0.5億円

特別利益		(億円)
投資有価証券売却益※	7.5	
固定資産売却益	0.1	
合 計	7.6	

特別損失		(億円)
固定資産処分損	1.4	
投資有価証券評価損	0.5	
そ の 他	0.0	
合 計	1.9	

※ 政策保有株式の売却

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

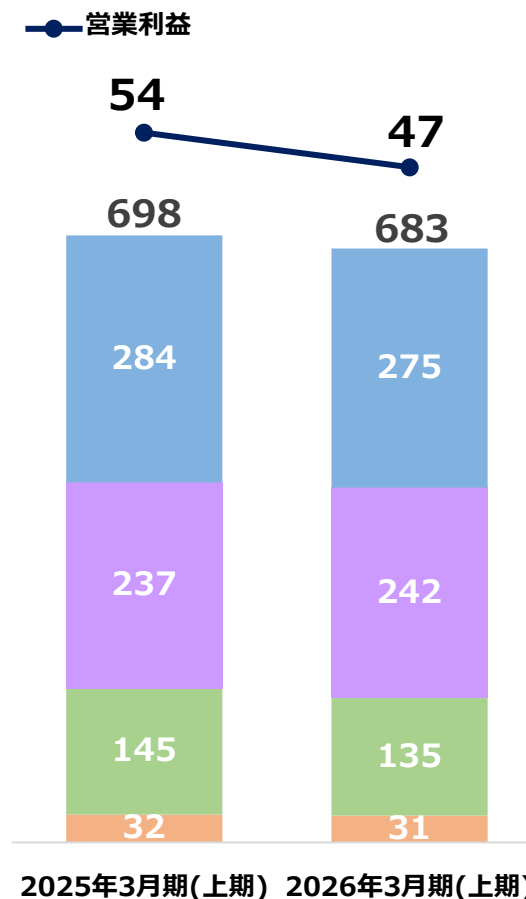


セグメント別 売上高・営業利益

セラミック・マテリアルが増益も全体では減益

			(億円)		
			2025年 3月期 (上期)	2026年 3月期 (上期)	対前年 同期比
売上高	工業機材		284	275	△3.1%
	セラミック・マテリアル		237	242	+2.1%
	エンジニアリング		145	135	△6.8%
	食器		32	31	△3.6%
	計		698	683	△2.1%
営業利益	工業機材		10	5	△49.5%
	セラミック・マテリアル		38	39	+3.8%
	エンジニアリング		9	7	△22.7%
	食器		△2	△4	—
	計		54	47	△12.9%

売上高・営業利益 (億円)



1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

Noritake

セグメント別 売上高

工業機材事業

商品別売上高

(億円)

	2025年 3月期 (上期)	2026年 3月期 (上期)	増減
オーダーメイド品	167	161	△6
汎用品	117	114	△2
合 計	284	275	△9

オーダーメイド品

国内

主要顧客である軸受業界が
持ち直しも、自動車・鉄鋼
業界の減産により減少



海外

北米は自動車・軸受向けが減少、中国は
鉄鋼向けが減少、東南アジアは自動車・
軸受向けが減少、海外全体で減少

汎用品

オフセット砥石などは国内向
けは微増、海外向けはアジア
で堅調も、タイヤーツ高の影
響により減少

研磨布紙は海外向けが減少も、
国内向けは堅調



1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

Noritake

セグメント別 売上高

セラミック・マテリアル事業

商品別売上高

(億円)

		2025年 3月期 (上期)	2026年 3月期 (上期)	増減
	電 子 ペ ー ス ト	52	57	+4
	電 子 部 品 材 料	93	101	+8
	セ ラ ミ ッ ク 原 料	38	30	△8
	セ ラ ミ ッ ク ス	53	54	+0
合	計	237	242	+5

**電子ペースト・
電子部品材料**
積層セラミックコンデンサ用材料において、ADASの進展等により自動車向けが増加、AIサーバー向けも堅調



セラミック原料
耐熱ガラス用及びディスプレイ用が大きく減少



電子ペーストよりセラミックスへ一部の商品に移管しております。

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



セグメント別 売上高

エンジニアリング事業

商品別売上高

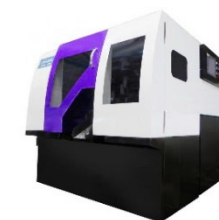
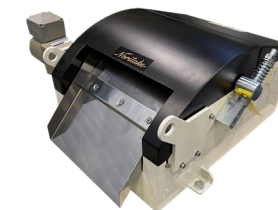
(億円)

	2025年 3月期 (上期)	2026年 3月期 (上期)	増減
焼 成 炉 ・ 乾 燥 炉	112	103	△10
混 合 装 置 ・ 濾 過 装 置	15	18	+3
超 硬 丸 鋸 切 断 機	6	3	△2
ロ ー ド カ ッ タ ー 等	12	11	△1
合 計	145	135	△10



焼成炉・乾燥炉
リチウムイオン電池用
が減少

混合装置・濾過装置
半導体・化学・食品
向けが堅調



超硬丸鋸切断機
自動車向けが大きく
減少

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



セグメント別 売上高

食 器 事 業

商品別売上高

(億円)

		2025年 3月期 (上期)	2026年 3月期 (上期)	増減
	国内	14	14	△0
	米州	7	6	△1
	欧州・アジア	11	11	△0
合	計	32	31	△1



国内
ホテル・エアライン向け及び直営店は増加も、一部商品の終売の影響で全体では微減



米州
メキシコのホテル・レストラン向けが堅調も、関税政策の影響により全体では減少



欧州・アジア
中東のエアライン向け等は堅調も、中国・インドは減少

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



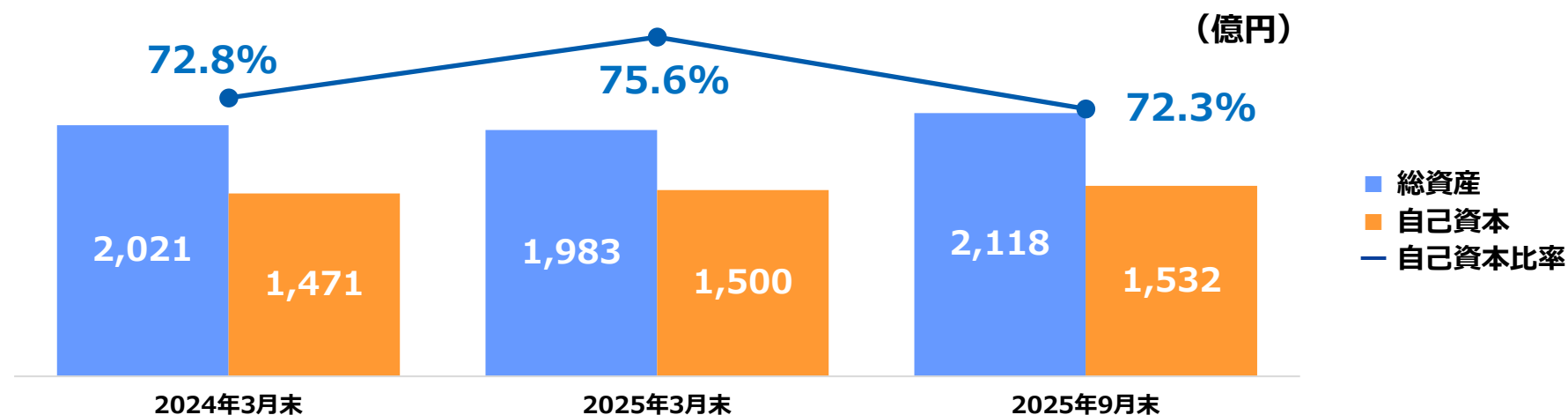
連結貸借対照表

前期末比で総資産・自己資本は増加、自己資本比率は減少

(億円)

	2024年 3月末	2025年 3月末	2025年 9月末	対前期末比
総 資 産	2,021	1,983	2,118	+135
自 己 資 本	1,471	1,500	1,532	+32
1 株 当 たり 純 資 産	5,074円	5,286円	5,570円	+284円
自 己 資 本 比 率	72.8%	75.6%	72.3%	△3.3%

2024年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2024年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。



1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



キャッシュ・フロー計算書

フリーキャッシュフローは△36億円

現金及び現金同等物残高は112億円、対前年同期比 △12億円

(億円)

	2025年3月期 (上期)	2026年3月期 (上期)	対前年同期比
営業活動によるCF	0	34	+34
投資活動によるCF	△44	△71	△26
フリーキャッシュフロー	△44	△36	+7
財務活動によるCF	△13	28	+41
現金及び現金同等物残高	123	112	△12

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要



有利子負債

（億円）

	2025年3月末	2025年9月末	対前期末比
有 利 子 負 債 ※	61	151	+90
現 預 金	166	164	△2
ネ ッ ト 有 利 子 負 債	△105	△13	+93

※ 有利子負債にリース債務を含めず

設備投資、減価償却費

（億円）

	2025年3月期 （上期）	2026年3月期 （上期）	対前年同期比
設 備 投 資	38	66	+28
減 価 償 却 費	25	27	+2

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
- 2. 2026年3月期 業績予想と重点施策**
3. 第13次中期経営計画の進捗

2. 2026年3月期 業績予想と重点施策



2026年3月期 業績予想

売上高 1,410億円、営業利益 105億円、経常利益 145億円、当期純利益 120億円

(億円)

	2025年3月期			2026年3月期予想			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減
売上高	698	684	1,382	683	727	1,410	+28
営業利益	54	48	102	47	58	105	+3
経常利益	72	68	140	67	78	145	+5
親会社株主に帰属する 当期純利益	60	69	129	54	66	120	△9

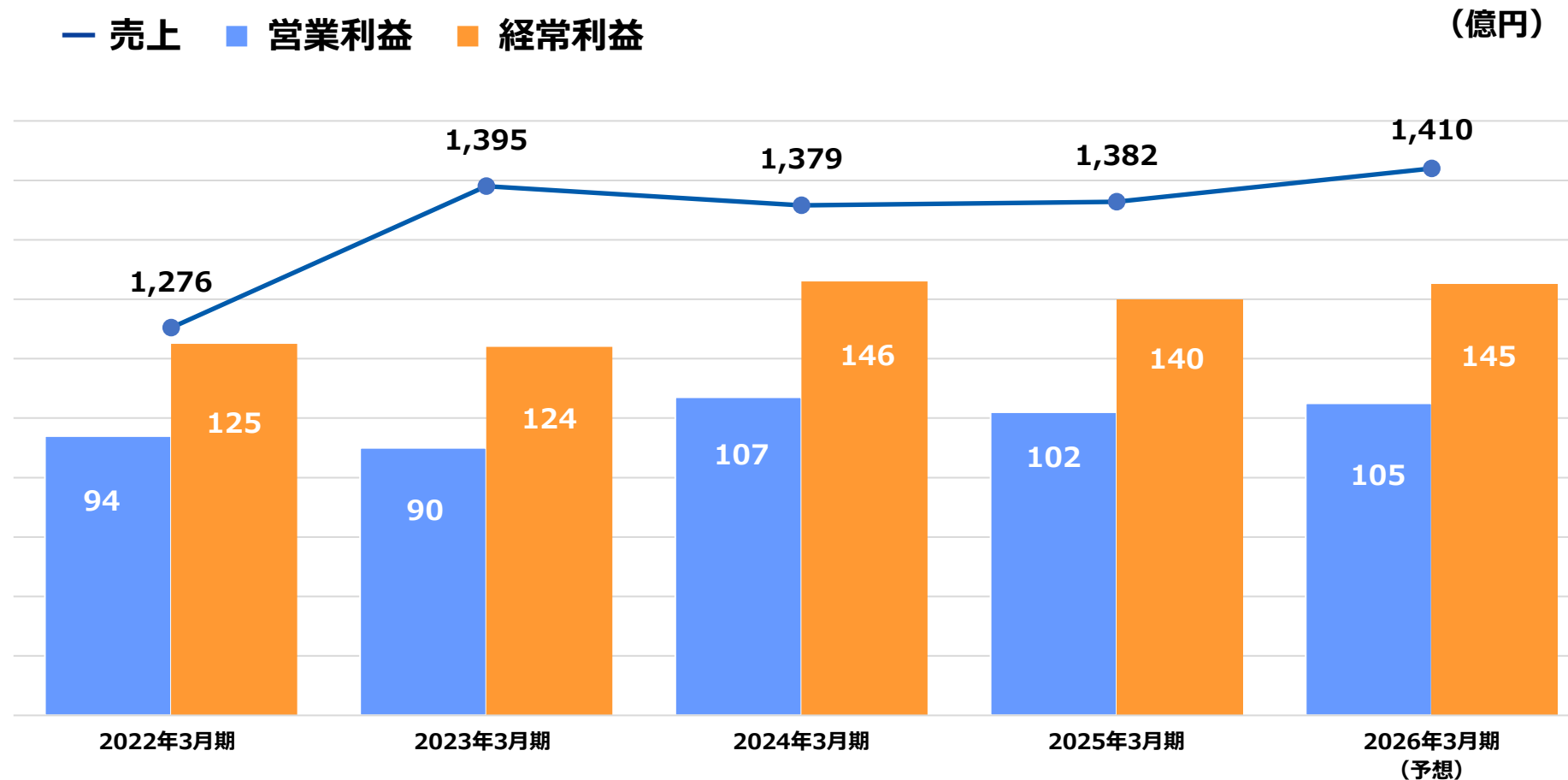
U S \$ 為 替	152.6円	146.1 円	145.0 円
------------	--------	---------	---------

2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

Noritake

2026年3月期 業績予想

売上高・営業利益・経常利益は増加を予想



2. 2026年3月期 業績予想と重点施策



セグメント別業績予想

(億円)

		2025年 3月期			2026年 3月期予想			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	工業機材	284	280	564	275	280	555	△9	△0	△9
	セラミック・ マテリアル	237	218	455	242	243	485	+5	+25	+30
	エンジニアリング	145	146	291	135	165	300	△10	+19	+9
	食器	32	40	72	31	39	70	△1	△1	△2
	計	698	684	1,382	683	727	1,410	△15	+43	+28
営業利益	工業機材	10	8	18	5	8	13	△5	△0	△5
	セラミック・ マテリアル	38	30	67	39	35	74	+1	+5	+7
	エンジニアリング	9	8	17	7	13	20	△2	+5	+3
	食器	△2	2	△1	△4	2	△2	△1	△0	△1
	計	54	48	102	47	58	105	△7	+10	+3

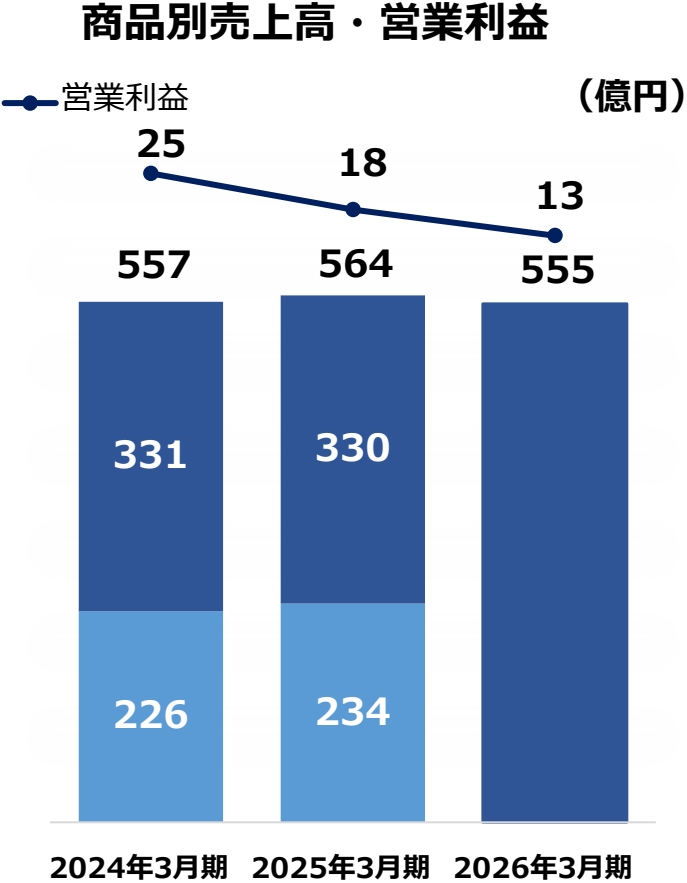
2. 2026年3月期 業績予想と重点施策



工業機材事業

国内の自動車・鉄鋼業界の回復に遅れ

売上高 555億円 (9億円減収)
営業利益 13億円 (5億円減益)



2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

Noritake

工業機材事業

エレクトロニクス分野を中心に成長領域向けの新商品の開発、販路の拡大、増産体制の確立



複層歯車研削用砥石



LHAパッド



研磨布紙

オーダーメイド品事業

- ・市場の変化に迅速に対応するため、製品別から市場別（成長領域別）に事業体制を再編
- ・徹底した収支改善の継続（拡販・価格適正化・OEM活用・原価低減等）

汎用品事業

- ・国内及びタイ国の製造体制の再編・整備による収支改善
- ・国内及び海外の販売拠点整備
- ・販売・製造システムの刷新

2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

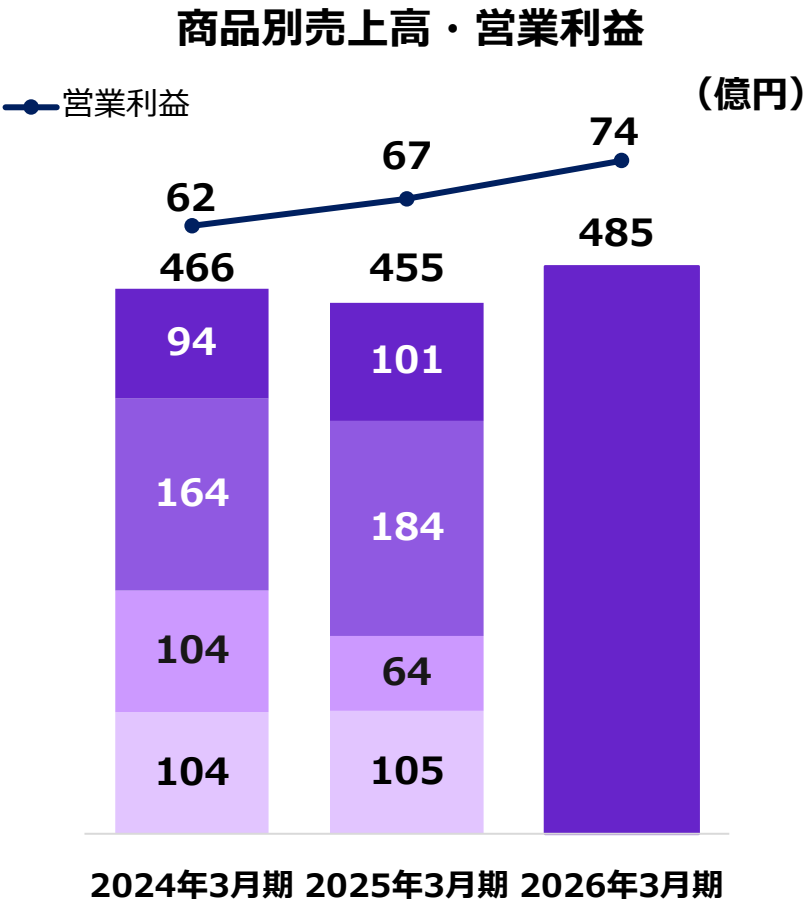


セラミック・マテリアル事業

積層セラミックコンデンサ用材料が増加、セラミック原料は減少

売上高 485億円 (30億円増収)
営業利益 74億円 (7億円増益)

電子ペースト	
電子部品材料	
セラミック原料	
セラミックス	
	



2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

Noritake

セラミック・マテリアル事業

成長領域（環境・エレクトロニクス・ウェルビーイング）向け新商品の開発

電子ペースト

価格適正化と製品ラインナップの拡充、パワー半導体周辺材料への参入と量産化



電子ペースト



電子部品材料

電子部品材料

積層セラミックコンデンサ用材料の生産能力増強、製造基盤の整備と原価低減による競争力の強化

セラミックス

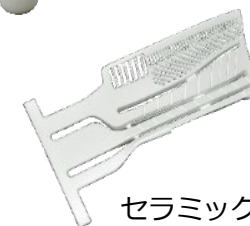
2025年4月に印刷技術の中核とした事業ポートフォリオの再編を実施、高収益で高効率な事業基盤の確立



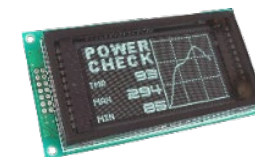
石膏



厚膜回路基板



セラミックコア



蛍光表示管


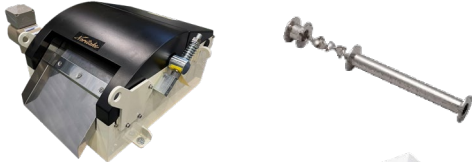
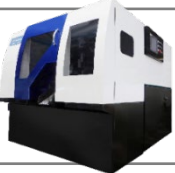

2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

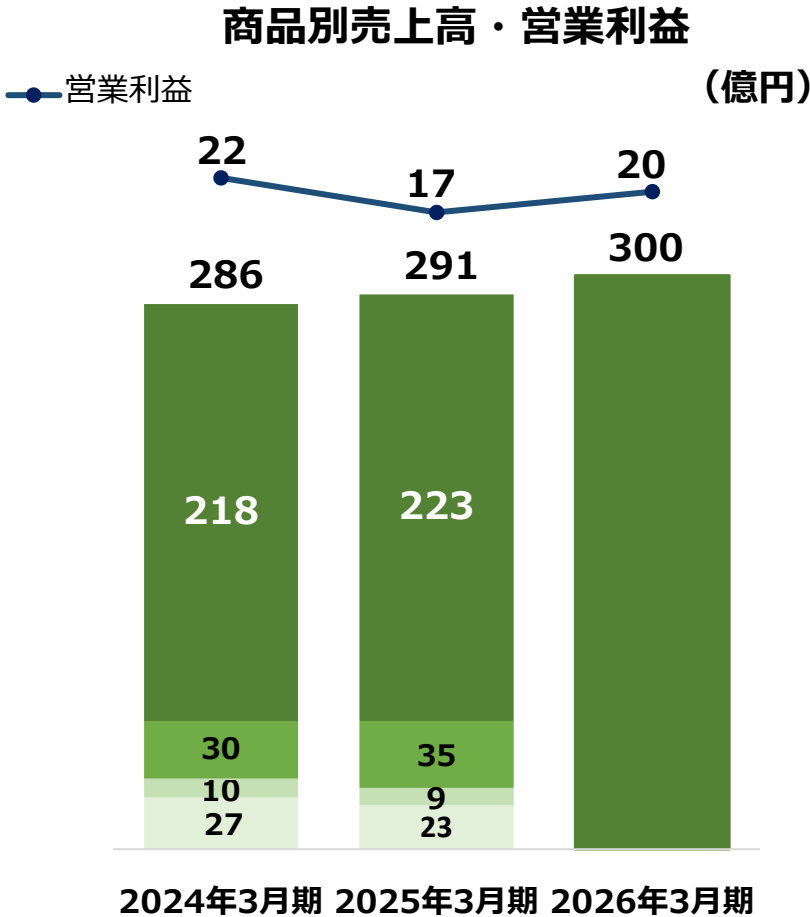


エンジニアリング事業

主力のリチウムイオン電池用焼成炉・乾燥炉が堅調に推移

売上高 300億円 (9億円増収)
営業利益 20億円 (3億円増益)

	焼成炉・乾燥炉	
	混合装置・濾過装置	
	超硬丸鋸切断機	
	ロードカッター等	



2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

Noritake

エンジニアリング事業

成長領域への注力と新商品開発、新分野の開拓

エネルギー・エレクトロニクス分野

開発、販売、製造、品質管理体制の整備、アフターサービス（メンテナンス・消耗品販売等）体制の確立

新分野

新分野(医薬、半導体、サーキュラーエコノミー)への参入と市場開拓、成長領域（環境・エレクトロニクス・ウェルビーイング）での新用途・新商品の開発



水素燃焼式リチウムイオン電池電極材用連続焼成炉
(C-SERT-RHK-Nero)



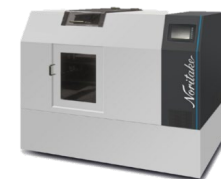
ファインバブル
(微細気泡)発生器



小型スタティックミキサー



コンクリートカッター



スラッジ固形化装置
スマートブリケッター



カラムレス精製装置

2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

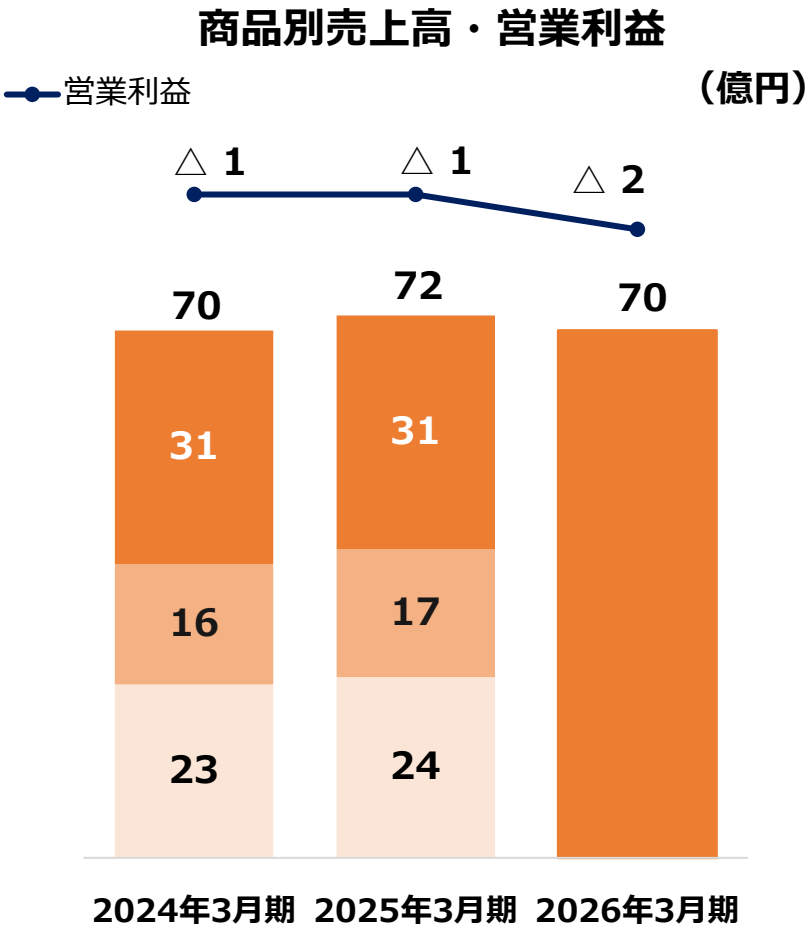


食器事業

下期は収支改善も、通期では前年比減収減益予想

売上高 70億円 (2億円減収)
営業利益 △2億円 (1億円減益)

	国内	
	米州	
	欧州 アジア	



2. 2026年3月期 業績予想と重点施策

Noritake

食器事業

黒字化に向けて収支改善を継続

国内・米州・欧州・アジア

米国の収益改善と各国の販売体制の構築、環境負荷を低減する素材の採用などの新商品開発、事業基盤（製造・販売・技術）の整備、ブランド力向上と新分野（インテリア・ライフスタイル等）への参入、今後の成長が見込まれる海外HoReCa※市場での拡販

※ HoReCa（ホレカ）：Hotel（ホテル）、Restaurant（レストラン）、Cafe / Catering（カフェ / ケータリング）の略語



1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2026年3月期 業績予想と重点施策
- 3. 第13次中期経営計画の進捗**

3. 第13次中期経営計画の進捗

VISION2030 【2030年度のありたい姿と第13次中期経営計画の位置付け】



VISION2030（ありたい姿）の実現に向けた第13次中期経営計画（以下、第13次計画）の位置付けは「**成長基盤の確立**」。

経営環境の変化

- 地政学リスクの増加・顕在化
- 保護主義の台頭
- 為替変動リスク
- 人口減少、高齢化、労働力不足
- 心身の健康や幸福への関心の高まり
- 気候変動など環境問題の深刻化
- サステナビリティに対する意識の高まり
- 生成AIやDXの進展

VISION2030 (ありたい姿)

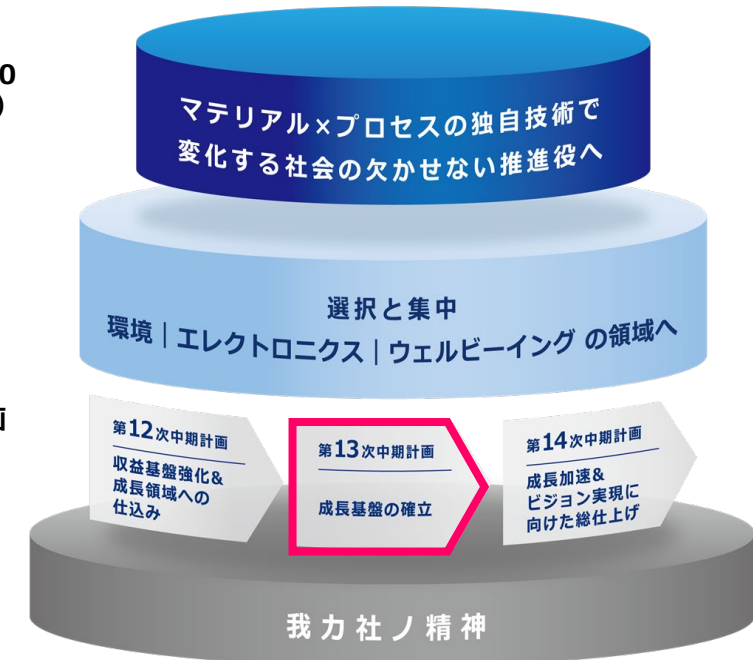
マテリアル×プロセスの独自技術で
変化する社会の欠かせない推進役へ

VISION2030
(ありたい姿)

全社戦略

中期経営計画

理念



第13次計画

「成長基盤の確立」

3. 第13次中期経営計画の進捗

第13次計画【骨子】

Noritake

第13次計画では、両利きの経営として「強固な収益基盤の構築」と「成長加速に向けた投資」を推進するとともに、事業成長を後押しする「経営基盤の高度化」に取り組む。また、これらの戦略実行に最適な体制に事業再編する。

第13次中期経営計画 ～成長基盤の確立～

強固な収益基盤の構築

- 成長領域への事業転換
(増産・拡販・新商品開発)
- 合理化・収益改善
(価格適正化、原価低減、設備更新等)
- 高付加価値・高収益な事業機会の獲得

成長加速に向けた投資

- 市場起点による
事業横断の戦略的企業連携
(M&A・資本提携等)
- オープンイノベーション・
他社との協業による新事業創出

事業成長を後押しする

経営基盤の高度化

- サステナビリティ経営の推進
- 人的資本経営の強化
- DXの推進

3. 第13次中期経営計画の進捗 第13次計画【経営数値目標】

Noritake

第13次中期経営計画 ～成長基盤の確立～

資本効率

ROE 9%以上（2027年度）

PBR1倍超の早期実現

収益力

営業利益 135億円（2027年度）

経常利益 175億円（2027年度）

株主還元

配当性向 35%以上

（第13次計画期間中は、一株当たり年間140円（2025年3月期末の配当金額×2を想定）を下限とした累進配当）

機動的な自己株式取得

総還元性向 50%以上（第13次計画期間累計）

事業別数値目標（単位：億円）

	2024年度実績			2027年度目標		
	売上高	営業利益	経常 ^{※1} 利益	売上高	営業利益	経常 ^{※1} 利益
工業機材	564	17	17	615	31	31
セラミック・マテリアル	455	66	88 ^{※2}	540	79	102^{※2}
エンジニアリング	291	19	19	345	25	25
食器	72	0	0	75	0	0
その他	-	-	16	-	-	17
合計	1,382	102	140	1,575	135	175

想定為替レート：US\$ 140円

※1 事業別の数値は事業別ROICで使用する利益（＝営業利益＋持分法投資損益（※2は歯科材料事業含む）等）

3. 第13次中期経営計画の進捗

第13次計画【成長領域への積極的な投資】

成長領域への投資を積極化するとともに、強固な収益基盤を構築するために、老朽化設備の更新による効率化も推進する。

第13次計画期間中、累計350億円を超える設備投資を計画



3. 第13次中期経営計画の進捗

第13次計画【オープンイノベーションの加速による新事業創出】

全従業員から広く開発テーマを募る開発テーマ提案制度とステージゲート制度により、全社一丸となって新事業を育てる。同時に、これまでの自前主義から脱却し、オープンイノベーションにより早期の新事業の創出に結びつける。



開発テーマ提案制度

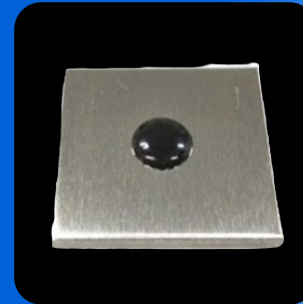
ステージゲート制度による開発リソースの最適化



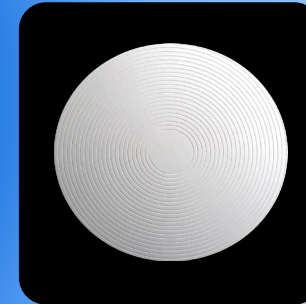
バイオ医薬用
カラムレス精製装置



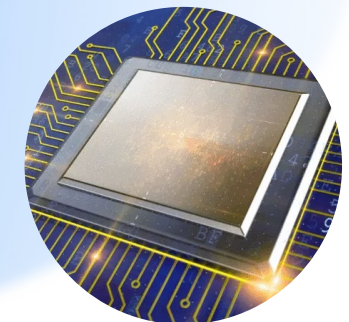
DAC(Direct Air Capture)用
多孔質部材SUPCA(サブカ)



Mi※を活用して試作に
成功した新ガラス材



パワー半導体ウェハー用
研磨用工具



オープンイノベーションの加速

スタートアップとの協業 / 産官学連携

※ MI (マテリアルズ・インフォマティクス) : AIをはじめとする情報科学の技術を活用し、材料開発を迅速化する手法

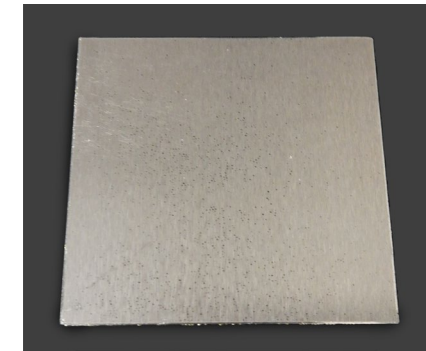
3. 第13次中期経営計画の進捗

Noritake

「ダイヤモンドーニッケル放熱基板」で1200W/ (m・K) の高熱伝導率を達成

高速通信（5G、6G）向け半導体用に、熱を効率的に逃がすことができる「ダイヤモンドーニッケル放熱基板」を開発し、熱伝導率1200W/(m・K)を達成しました。優れた熱伝導性を持つダイヤモンドを合成し大きな基板にすることは、製造コストや時間の課題がありましたが、ノリタケが培っためっき技術を応用し、ダイヤモンドをニッケルで高密度に結合させることで、高水準の熱伝導率と100×100mmという大きな基板サイズの両立に成功しました。

この技術は、基地局やデータセンターの安定稼働・省エネに寄与し、次世代通信インフラの高機能化を下支えすることが期待できます。



ダイヤモンドーニッケル放熱基板

GaNウエハー用研磨パッドの開発に成功

ー高速通信（5G・6G）向け半導体の生産性向上に貢献ー

高速通信向け半導体に用いられるGaN（窒化ガリウム）ウエハー用の研磨パッドを開発しました。GaNは非常に硬く脆い素材のため加工が難しく、研磨時間が長いという課題がありました。本開発品は、有機物と無機物を複合する独自技術により強酸性領域での使用を可能にしました。その結果、研磨速度を従来品の30倍、パッド寿命を15倍以上に延長しました。また、研磨剤スラリーの使用量低減や、スラリーを使わない加工も可能になり、産業廃棄物の低減にも貢献します。



GaNウエハー用研磨パッド

3. 第13次中期経営計画の進捗

Noritake

自動車向けパワー半導体用の銀ペースト接合材

—LG化学と共同で開発に成功、長期常温保管を達成—

LG化学と共同で、自動車向けパワー半導体用の銀ペースト接合材を開発しました。パワー半導体モジュールでは部材同士の接合に銀ペーストが使用されていますが、安定した品質を保つには冷凍保管（-10℃）が必要で、使用期限は約3か月でした。本共同開発品は、ノリタケの粒子分散技術とLG化学の粒子設計技術により、常温（25℃以下）での長期保管（6か月）を可能にしました。これにより、従来必要だった冷凍保管が不要となり、運送や保管コストの削減に貢献します。



銀ペースト接合材

半導体向け回路形成用銅ナノペースト、スラリーを販売開始

—銅ナノ粒子をノリタケがスケールアップ製造、三菱商事グループとともに市場展開—

北海道大学が開発した銅ナノ粒子をノリタケの微粒子製造技術で製造量を拡大し、200℃以下かつ窒素雰囲気下で焼結が可能な「銅ナノペースト・スラリー」として製品化しました。

近年研究が進んでいる銅ペーストの印刷による回路形成では、300℃以上の高温焼結による基板の反り・劣化が課題でした。本開発品では、低温（150～200℃）・不活性ガス（窒素雰囲気）下での焼結を可能にし、基板の反り・劣化を抑え、安全上の管理負担も軽減することができます。さらに、従来のフォトリソグラフィ方式と比べて銅の使用量を削減し、薬品を使用しないため、環境負荷の低減にも貢献します。

販売においては、三菱商事グループと連携し、半導体モジュール向け回路形成用途としてグローバルな市場展開を進めてまいります。

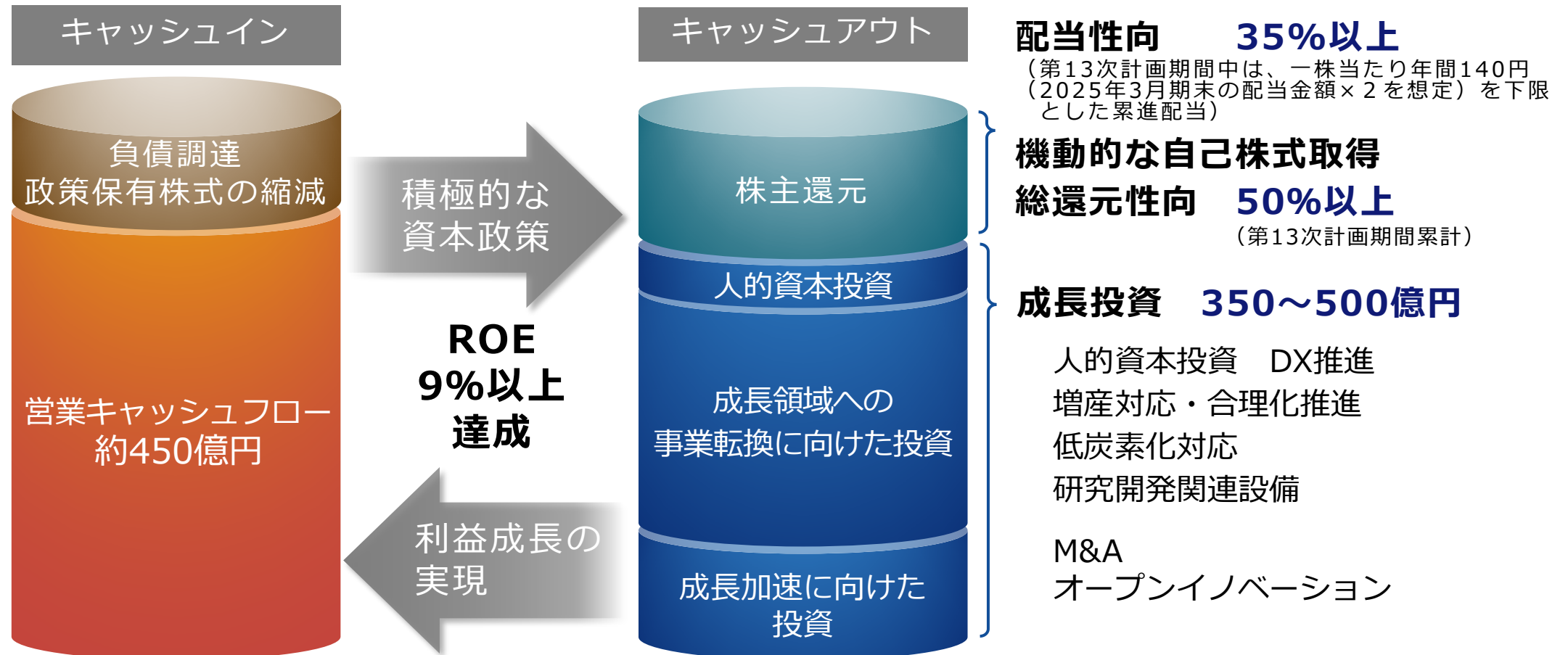


銅ナノペースト

3. 第13次中期経営計画の進捗

第13次計画【キャピタルアロケーションと株主還元】

第13次計画においては、営業キャッシュフローに加え負債調達や政策保有株式の縮減を原資に、成長投資として350～500億円を見込む。株主還元については、配当性向を35%以上に引き上げ、累進配当を実施するとともに、機動的に自己株式取得を実施し、総還元性向50%以上（第13次計画期間累計）とする。



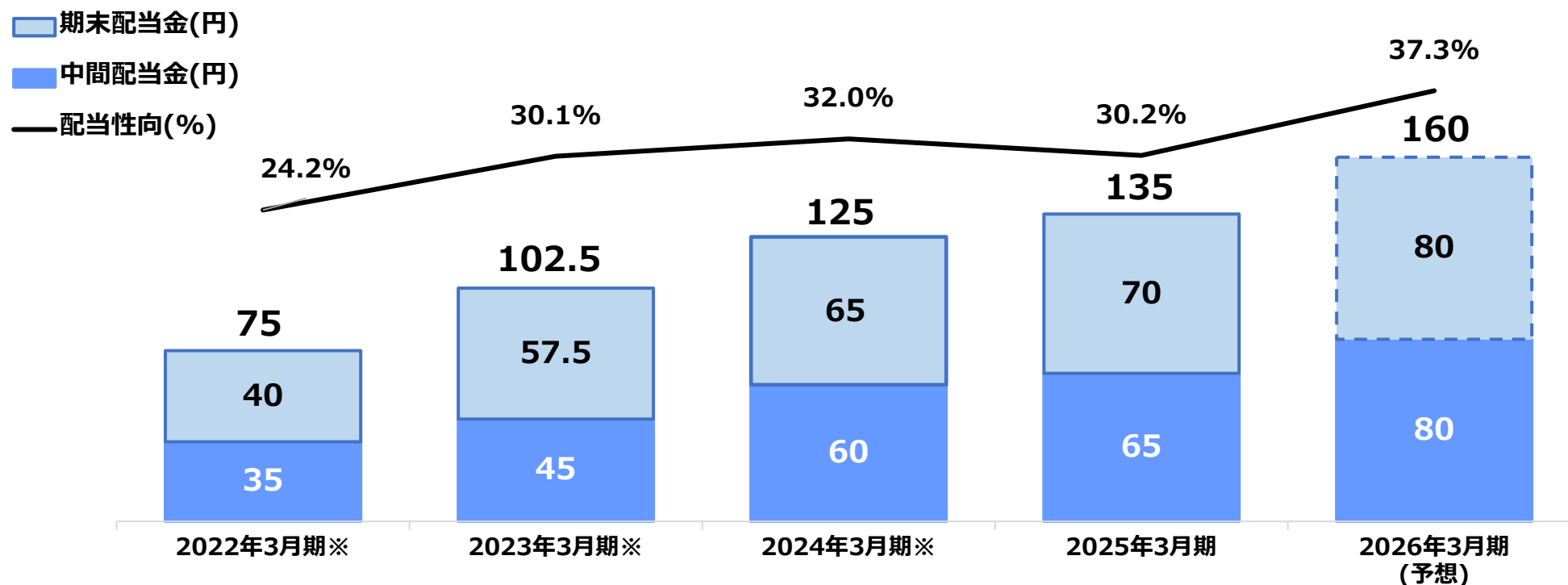
3. 第13次中期経営計画の進捗

<配当金>

通期配当予想は年間160円

中間配当金 80円/株、期末配当金 80円/株を予定

※ 2024年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2022年3月期～2024年3月期の配当金についても、比較の便宜上分割後を基準とした数値を記載しております。



3. 第13次中期経営計画の進捗



<自己株式の取得及び消却>

株主還元の拡充を目的とし、機動的な自己株式取得を行うものです。
なお、取得した自己株式は全数を消却いたしました。

取得に係る事項の内容

(1) 取得対象株式の種類	当社普通株式
(2) 取得した株式の総数	930,900株
(3) 株式の取得価額の総額	4,142,505,000円
(4) 取得日	2025年8月8日
(5) 取得方法	東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付け

消却に係る事項の内容

(1) 消却対象株式の種類	当社普通株式
(2) 消却株式の総数	上記により取得した自己株式の全数 930,900株 (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合3.28%)
(3) 消却日	2025年9月10日